

田中康夫の



# 安倍しぐさ

79

「個人的な事情などブライバシーに関わり、お答えは差し控えさせて頂く」。第98代内閣総理大臣が参議院本会議で「配慮」した個人情報とは首相官邸HPで現在も、振

地方創生交付金を活用し、起業資金の支援を受けました」。

令和の新年号下で最初の施政方針演説を閣議決定を経て改竄する訳にもいかず、昨年デヴューしたアイドル「もりかけさくら」ちゃんの教訓を活かし、「頭も尻も全て隠さぬ」コペルニクスの転回の居直りでしょうか？

「地域みんなまで、手伝ってくれました」「地方にこそ、チャンスがある」と独白まで紹介された青年も豈囃らんや昨年末、「東京に帰る」と島根県江津市役所へ挨拶に出向き、国会召集日には自ら市役所に、演説で紹介されるらしいと連絡していた香ばしさが発覚。

「君と僕は、同じ未来を見ている。行きましよう、プーチン大統領」「ゴールまで、ウラジミール、2人の力で、駆けて、駆け、駆け抜けようではありませんか」。相田みつを顔負けポエムで「迷声」を確立したスピーチライターは、基本的事実確認すら怠ったのでしょうか。況んや本来は「石橋を叩いて叩いて叩いて渡る」が身の上な周囲の官邸官僚に於いてをや。

「百の診療所より1本の用水路を！」と2007年の著書『医者、

用水路を拓くアフガンの大地から世界の虚構に挑む』で井戸1500本・用水路13kmの実践を語っていた中村哲氏。首都カブール国際空港でエミレーツ航空の機体に運び込まれた彼の棺を、アシユラフ・ガニー大統領は自ら担ぎました。他方、成田到着時に首相も官房長官も外務大臣も出向かず、外務副大臣レヴェルの対応で済ませ、福岡市での告別式に供花も弔意も届けぬ日本政府。

世界銀行出身のガニーは、韓国の潘基文が選出された2006年の国連事務総長選にも立候補した野心家でパフォーマンスに長けた御仁。が、それとこれとは別問題。一国の大統領が送り出した亡骸を迎え入れるべきは誰か、外交儀礼の以呂波も弁えず、日本国の指導者の顔に泥を塗っても恬として恥じぬ周囲の面々。

真の国家益・国民益の為に臆せず進言・諫言してこそ有為な配下である筈なのに、下や横には目が付いていない「ヒラメ官吏」は「鼻肩の引き倒し」を繰り返して、徒に国家益・国民益を損ねているのです。

選良と呼ぶのも憚られる女性

国会議員が放った野次「だったら結婚するな！」も同様に。TVカメラの放列に気付くや、着信してないスマートフォンに「もしもし、はいはい、それで、そういうことになってますので」と「水脈しぐさ」で稚拙な「や」つてる感。を演じ、失笑を買っています。即ち「と学会」認定の実体なき「江戸しぐさ」

その意味では、カルロス・ゴーン「被告人」がベイルートで会見を行う直前、「本来、日産の中で片付けて貰いたかった」と嘗て商工省が位置した日産自動車旧本舗ビルから程近い東京吉兆本店で御手洗富士夫キャノン会長に述べた、森羅万象を司る総帥も密かに、周囲が練り広げる制御不能な令和版「江戸しぐさ」に辟易しているのかも知れません。

平成の真珠湾奇襲だと粋がった特捜検事と経産官僚に対し、今やインパール作戦の泥沼で、欧米メディアから「前近代的国家」と笑いや罵りや苦々しく。而して「人質司法」の汚名返上と突入し、中国、マカオに続いてアメリカにも飛び火しそうなIRカジノ捜査に至っては一体なんなんだと。

★次号の田中の発行口は「新ニッポン」。